

西部センターだより

3号

H31.2.28

「公民館が消えてしまった！」 名称が変わったとか、施設が廃止になってしまった、という話ではなく、消えてしまったのです…。

昨秋のことです。手元にある地図帳の改訂版が発売されました。この地図帳、県内のいろいろな情報を網羅しており、使い勝手もよく重宝していました。パワーアップして改訂版が出るということで買い求め、パラパラめくって…。あれ？ 公民館が無い所がある？ 誤植？ と暫し考えました。

掲載されている公民館名には、人が走っている図柄のマークがついています。このマークは学校や集会施設などにも表示されていて、災害時の避難所を表していました。指定されている公民館は地図帳に表示されているのですが、そうでない公民館や、施設名でマークがついていても施設に同居している公民館名は消えていました。

地図帳は、限られた紙面にすべての情報を網羅するわけにはいきません。地元の方にも来訪者など地理に不案内な者にとっても、“いざ”というときの情報の必要性から、公民館より「避難施設」の情報が優先されたのだと思います。

この掲載の選択の視点、見方を変えれば、地域の方にとって公民館は、身近で知っていて当然、建物よりも活動そのものに意味がある施設。それだけ地域に密着している表れ、と見ることもできると思います（多分に身勝手な推量ではありますが…）。

昨秋から年頭にかけて、スタッフが手分けをして管内のすべての公民館を訪ねました（ほとんどが挨拶程度で申し訳ありませんでした）。ウインドブレーカーを着ていたためか、出入りの電気屋に間違えられて…。外観の写真撮影をお願いしたら、職員の皆さんも並んでくださって…。センターの研修を受けた職員の方から、その後の活躍の様子をお聞きして…。職員の方のすてきなお話に引き込まれて…。訪れたスタッフから様々なエピソードを聞いて、ほっこりした雰囲気になりました。

地図帳から標記が消えようとも、公民館は地域の方にとって大きな拠り所で、地域の風土を育んでいく場だと思います。

昨年開催した「しまねの社会教育フォーラム2018」で、講師の志々田先生が、「風土を大切にしよう。地元の人(土の民)と、新たな風で刺激を与える人(風の民)のコラボレーションが大切」と話されたことが心に留まりました。

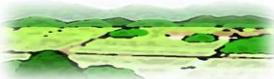
地域にとっては、社会教育を推進する行政担当者や派遣社会教育主事、あるいは公民館職員、そして社会教育という視点で将来の地域の姿を思い描き、それに向けての見通しと取組をリンクさせ、地域課題を解決しようとする地元の方々も「風の民」なのだと思えます。当社会教育研修センターは、そんな「風の民」の拠り所でありたいと思っています。

とは言うものの、出会った方から「社会教育研修センター？ そりゃ何かいな？」と言われてたり、会合などでセンターの紹介をしても、「????」という反応が返ってきたりすることもよくあります。とにもかくにも、目にとまり注目されない…。志々田先生は「おしゃれな社会教育」と言われます。この言葉、様々な捉えができると思いますが、目を引くこと、そのために、ちょっと背伸びして努力すること、それに向けてアンテナを伸ばしセンスを磨くこと…。来年度、おしゃれな姿が皆さまの目にとまれば幸いに思います（決してスタッフがおしゃれになるということではありません。念のため）。

今年度も当センター運営に、ご理解とご支援をいただき、ありがとうございます。

西部社会教育研修センター所長 舟木志郎

※「公民館」の表記について、「○○センター」等の施設を含め、当センターが実施する「公民館等実態調査」対象の施設を「公民館」と表記しました。



これまでの研修の様子

第5回公民館等職員研修

10月19日(金):少年自然の家



発表時のワンシーン

東西あわせて13名の方が、これまで学んできた成果を発表されました。

齋藤 博美さん(益田市 益田公民館主事) 『生き生き健康教室』 ～みんなで楽しく健康づくり～



公民館主事3年目で立ち止まり考えてしまいました。頑張ってきたけれど自信がなくなり、私でいいの? という思いがめばえてきました。いろいろ悩み、そして、やらせてもらうことが人生の張りになり、必要とされることで頑張れることに気づきました。そして誰もそうではないかと。皆さんに、公民館を訪れ笑顔になり元気になってもらいたい!そこで高齢者が、健康づくりや食を通してつながることをねらいに、「健康ウォーク」と「おい鍋の会食」を計画しました。どちらも笑顔や楽しそうに会話をする姿がみられました。今後は、皆さんが楽しむだけでなく、活動の輪を広げたり、自主的な動きが生まれていってほしいと思っています。

廣田 きよさん(益田市 豊田公民館主事) あゆといっしょにプカプカ流れよう ～心に残る豊かな親子活動～



忙しい子育て世代が、地域の人との交流や地域活動に参加することが増えることをねらいに“川流れ体験”を実施しました。これまで、川の活動を企画しても親子の参加が少なかったことから、実行委員会のメンバーに子育て世代の保護者に入ってもらいました。事前の会議で、子ども時代の川での体験を語ってもらう中で、子どもにさせたいことや当日のイメージを共有することができました。当日は、高津地区の子どもたちも一緒になって川流れを体験しました。その結果、参加した多くの人が活動の良さを実感し、世代を越えた交流が生まれました。今回、中学生ボランティアが協力してくれましたが、次回は彼らが表に出るような出番を作っていきたいと思っています。

虫谷 昭則さん(浜田市 石見公民館主事) 新・ふれあい祭り展示会



人材育成、公民館と団体・団体間のつながりを深めることをねらいに、ふれあい祭りを企画しました。まず、去年のふり返りから、各サークルの作品展示方法のマンネリ化、来場者の滞在時間の短さという課題が見えてきました。それを踏まえ実行委員会で、ラベルワーク等を活用しながら話し合いを重ね、「体験コーナー」を設けたり、手作り品等の即売をすることにしました。その結果、例年になく団体間の交流が深まり、来場者の滞在時間も伸びました。今年は、諸事情で来館者が減ることが予想され心配しましたが、充実した祭りになったと思います。今後は更に、公民館に集う人が増え、地域が元気になっていくことを願っています。

笹木 康平さん(津和野町 津和野中央公民館主事) つわの kinds circle ～新たな風をまきおこすために～



中学生が話し合いをする中で、主体性や話し合う力を身につけることをねらいに、地域運動会への参加(計画段階から)を計画しました。その結果、消極的に思えた中学生が、少しずつですが自主的に発言する姿が見られ、今までにはなかった中学生の発想を運動会に取り入れることができました。中学生は、去年の反省と実行委員の思いを聞きボスターづくりにも参加してくれました。まだ課題は残りますが、さらに主体性を身につけ、高校生や大人との様々な活動でも自分の意見が言え、活動できることを願っています。

森光 美佐子さん(邑南町 阿須那公民館主事) みんなで盛り上がり 秋風ふれあいコンサート



4つの自治会が交代で開催するイベントが阿須那公民館に回ってきました。推進委員が「秋風ふれあいコンサート」を考えることで公民館事業への参画意識を高めることをねらいにしました。推進委員の他に住民の方にも参加を呼びかけました。舞台グッズ作りでは、材料を準備する中で、皆さんの創作意欲に火がつき素晴らしい飾り幕が完成しました。見てもらえることが喜びにつながりました。公民館は、関わる人のわくわく感と負担感のバランスを取っていくことが大事だと思います。今後は、地域の色が見えるものにしていきたいと思っています。

野田 嘉彦さん(邑南町 井原公民館主事) 今、伝えたいこと 地域創生ふるさと学校 「井原を知る勉強会」



高齢者が、郷土について学び、伝えることによって、楽しさややりがいを感じてもらいたいという思いで、「井原を知る勉強会」で学んだことを「夏休み子どもウォーキング」で活用する事業を企画しました。夏の暑さで計画の変更もありましたが、沢山の児童が参加し、地域住民は、児童との交流を通して子ども事業に対して理解が深まり、活躍の場を持つことができました。児童もお世話になった高齢者へ感謝の気持ちを持つことが出来たのではないのでしょうか。また、高学年が低学年を思いやる場面も見られました。今後は活動を中高生にも広げ、高齢者と関わる大切さを感じてほしいと思います。

アイス
ブレイク



上下左右バン

ふり
返り



Q. これまでの研修をふり返って、PDCAが有効に働いたと思うこと、自分に必要な力は?

社会教育委員研修

10月4日(木):あすてらす



<説明> 島根県の社会教育委員を取り巻く現状と期待される社会教育委員の役割

<講義> 社会教育委員としてのチカラを発揮するために

講師：香川大学生涯学習教育研修センター長

教授 清國 祐二 氏



期待される社会教育委員の役割①

- ・任期中に確実な成果をあげる。
- ・教育委員会への答申や提言、建議を。
- ・計画的な調査が大切である。

期待される社会教育委員の役割②

・縦と横をつなぐ

行政には見えないところを見る目
ネットワークを推進・つなぐ役割が重要

・社会教育委員の会議の活性化

教育は種を蒔く行為。長いスパンで行う

国の動向から見る社会教育委員への期待①

- ・「地域総掛かり」で子供を育む
- ・地域とともにある学校づくり

地域の子どもにどう育てて欲しいのか？

国の動向から見る社会教育委員への期待②

- ・「人づくり・絆づくり」に向き合う

震災以降、災害に強いというのは、条件を整えるのではなく人と人のつながりが強いことへ

- ・「公民館」(地域の拠点) はとても重要

ぶれない核になりえているか？

地域の意思が統一されているか

役割をはっきりさせる



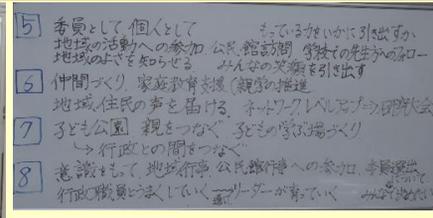
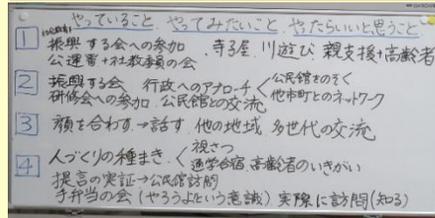
<演習①> 社会教育委員/担当者としてやりたいことを考える

■社会教育委員と市町村担当者がそれぞれ情報交換をしながら、地域の社会教育の推進を図っていくために必要なこと、やりたいことを考える。

<演習②> 連携・協働するために

社会参加しやすい環境づくりをめざして、具体的な動きを考える

■市町村で集まり、演習①で学んだことをもとに社会教育委員の力を発揮するための具体的な動きについて考える。



親学プログラム2対応

親学ファシリテーターフラッシュアップ研修

11月7日(水):いわみーる

4名の方が、「親学プログラム2」の中から、希望したプログラムをファシリテートされました。

今回は、センター職員が、実際の現場で想定される参加者の役割を演じ、より実践に近い体験をしていただきました。

アイスブレイク
体験



どすこいジャンケン



しりとり自己紹介

ふい返し

演習

演習1：3-③ SOSを見逃さない

水上真悟さん(吉賀町教育委員会派遣社会教育主事)

今川宣昭さん(江津市教育委員会主任主事)

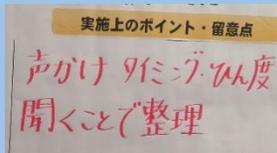
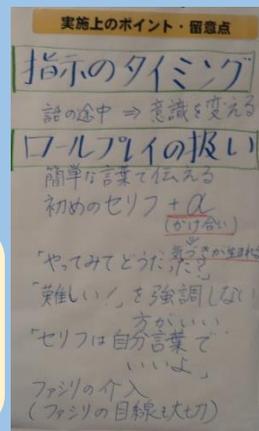
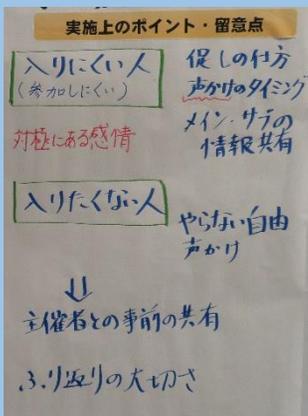
演習2：4-②子どもに届けよう、あなたの思い

吉本美和子さん(浜田市 白砂公民館主事)

演習3：4-③ こんな時、わたしなら・・・

玉川千鶴子さん

準備



・受講者の理解度を確認しながら、進行していた
・安心感をあたえる声かけが出来ていた

・関わり方が自然なので、グループで話しをしている時に来られても話し合いが続けられた
・参加しにくい人への配慮がなされていた

・各グループのコメントを上手くひろいあげて、的確にまとめられていた
・途中のふとした声かけにホッとしました

これまでの研修の様子

社会教育主事講習B

いわみーる・江田島・サンレイク

生涯学習概論 1/21～25
社会教育特講 2/7・8、2/12～19

社会教育計画 1/28・29、2/4～6
社会教育演習 1/30～2/1、2/20～27

社会教育主事となりうる資格を付与することを目的とした講習です。

*単年度の一括受講のほか、年度を越えて科目ごとに分割受講もできます。

各科目を5名から6名の方が受講されました。一日1コマ90分×4コマの講義に取り組み、本会場の講師に向け質問もなされるほど真剣に取り組んでおられました。江田島での演習は、島根東会場、広島会場、愛媛会場と合同で実施され、他会場の受講生から刺激を受けると同時に交流が生まれたようです。

生涯学習概論

全国8会場に向けてのメッセージ♪

社会教育計画

社会教育特講

演習の様子 (江田島)



グループワーク中♪



整然と並んだ三角座り軍団



カッター研修



權たて入

図書紹介

二打 生涯学習概論

馬場 祐次朗著

国立教育政策研究所社会教育実践研究センター
(2018発行)

公民館Q&A ～社会教育法第二十三条と 公民館諸問題を考える～

朱膳寺 宏一著

日本青年館
(2018増刷版)

ファシリーテーション・ ベーシックス

堀 公俊著

日本経済新聞出版社
(2018発行)

えんたくん革命

川嶋 直
中野 民夫著

みくに出版
(2018発行)

情報セキュリティ読本 五訂版

IT時代の危機管理入門

実務出版
(2018発行)

西部センターだより H30年度3号 2019年2月28日

発行/島根県立西部社会教育研修センター

〒697-0016 浜田市野原町1826-1(いわみーる3F)

TEL : (0855) 24-9344 FAX : (0855) 24-9345

Eメール : seibu_shakaikyoiku@pref.shimane.lg.jp

https : //www.pref.shimane.lg.jp/seibu_shakaikyoiku/